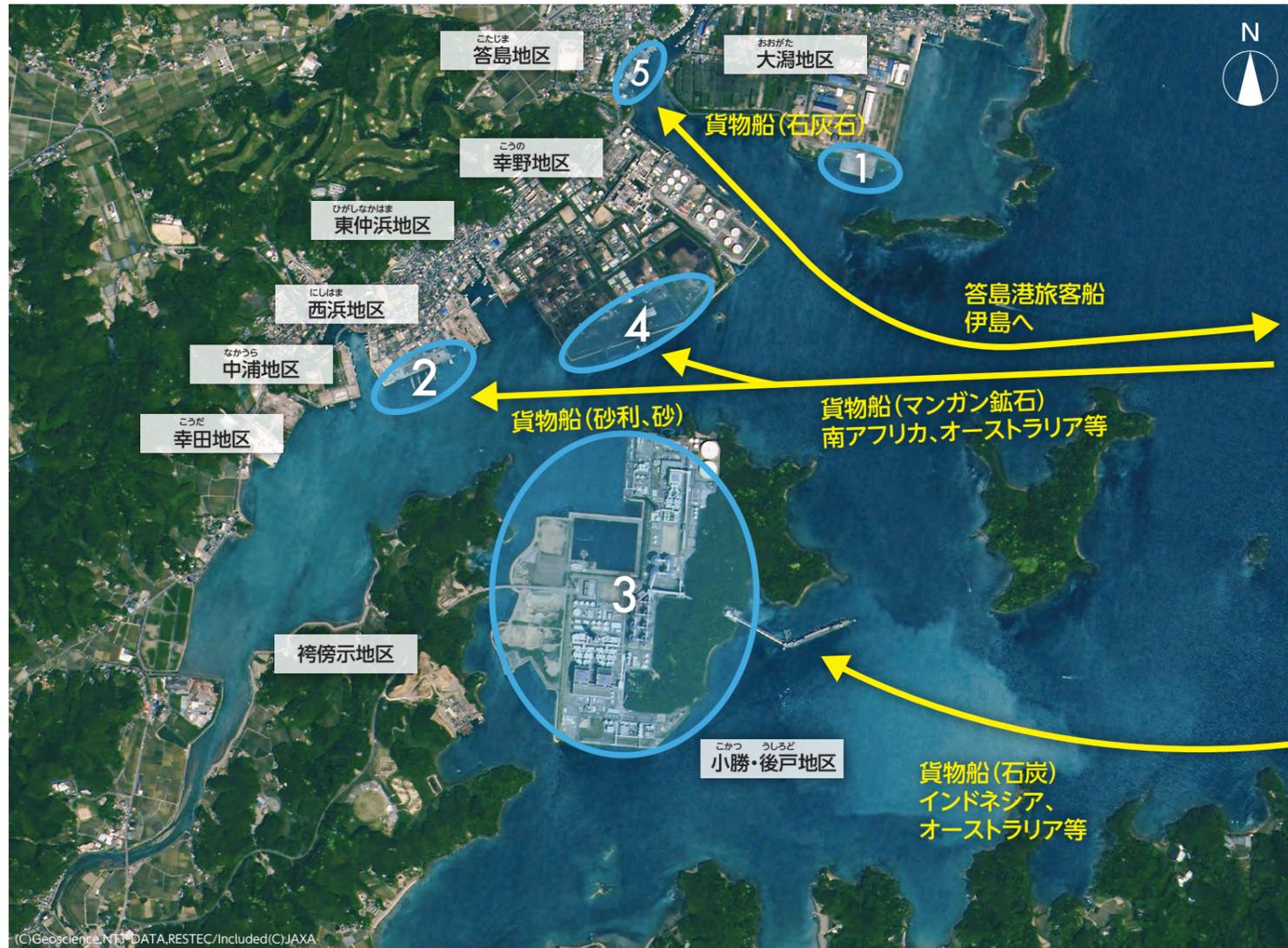
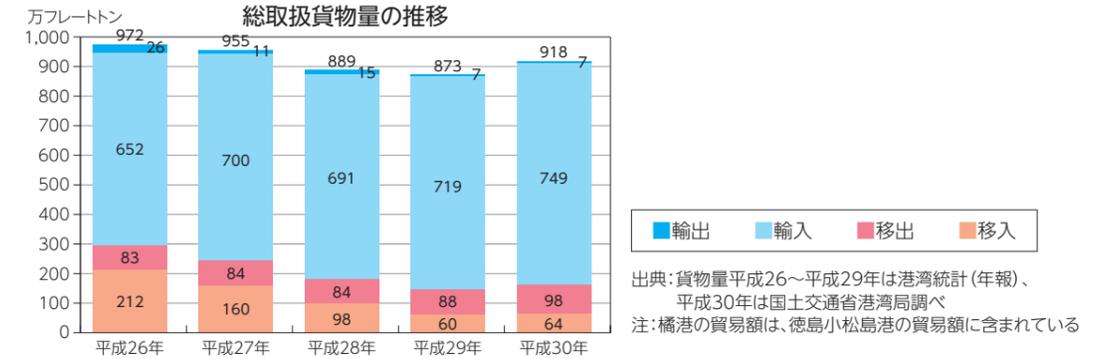


# 橘港 (重要港湾)

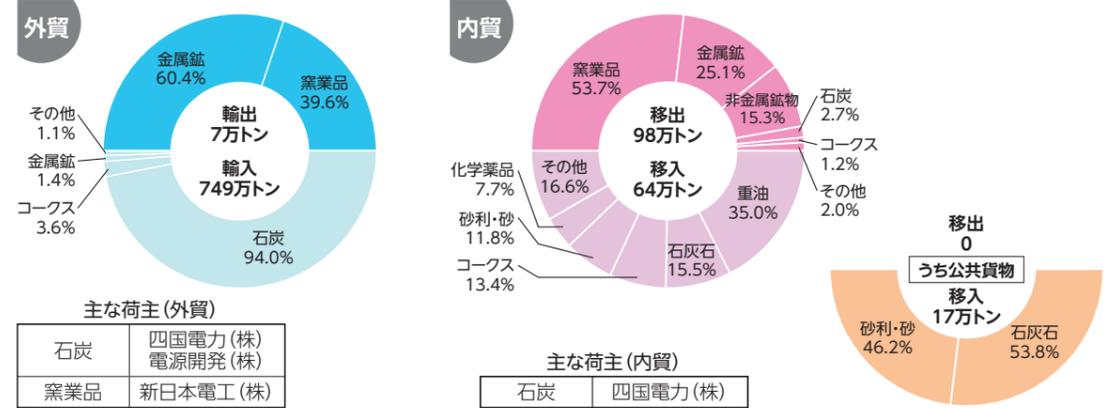


## 橘港の取扱貨物データ (平成30年)

### 平成30年 取扱貨物量



### 取扱貨物の品目内訳 (平成30年)



## 橘港の主な定期航路 (令和2年4月現在)

その他内航定期航路	船社名	便数
伊島~答島	伊島連絡交通事業(有)	3便/日

## 概要

橘港は、徳島県東部に位置する橘湾内にある天然の良港です。昭和初期には、阪神~高知航路の中継港として栄え、昭和25年から工業用地の造成が進み、昭和38年には四国電力(株)の阿南火力発電所が立地しました。また、平成7年には四国電力(株)の橘湾発電所及び電源開発(株)の橘湾火力発電所の整備が始まり、平成12年に運転を開始しました。現在では、発電用石炭の輸入や、窯業品、金属鉱、非金属鉱物の移出が多く行われています。

### 1 大湊地区

平成3年度に公共埠頭の整備に着手し、平成13年度には耐震強化岸壁(延長100m、水深5.5m)と岸壁(延長60m、水深5m)の供用を開始しました。



### 2 西浜地区

西浜地区(水深5.5m)の岸壁は老朽化が著しく、使用制限がかかっており、早期復旧を目指して整備を進めています。



現在、徳島県が岸壁3バース(延長270m)改良工事を施工中であり、その内90mを平成27年度に、60mを令和元年度に部分供用しています。

また、水深4mの物揚場では砂利・砂が取扱われており、県内の取扱量の22.9%を占めています。(平成30年の県内取扱量は取扱量は35万トン、西浜地区は約8万トン。)

### 3 橘湾火力発電所

西日本における電力確保及びエネルギー源の多様化に対応するため、火力発電所が立地しています。橘港では主にインドネシア、オーストラリアから石炭が年間約700万トン輸入されています。四国電力(株)と電源開発(株)が主な利用者であり、橘港の石炭輸入量は四国全体の42.3%を占めています(平成30年時点四国第1位)。

四国電力(株)橘湾発電所と電源開発(株)橘湾火力発電所の総出力は280万kW(一般家庭の約140万世帯分)であり、四国内のみならず、関西・中国・九州地域にも送電されています。



### 4 幸野地区

幸野地区の新日本電工(株)徳島工場は、南アフリカ及びオーストラリアから年間約40万トンマンガン鉱石を輸入し、合金鉄(高炭素フェロマンガン)を生産しています。



### 5 答島地区

1日3便旅客船が答島~伊島間の往復しています。また、石灰石を取り扱っており、県内の取扱量の95.6%を占めています。(平成30年の県内取扱量は取扱量は約9.3万トン、西浜地区は約8.9万トン。)



